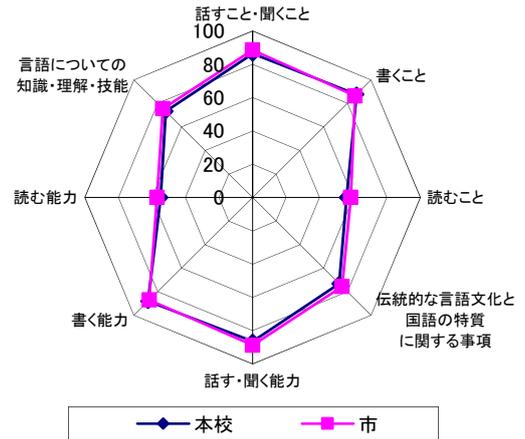


宇都宮市立清原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	86.4	88.7	89.1
	書くこと	87.8	86.4	64.2
	読むこと	56.1	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.0	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	86.4	88.7	89.1
	書く能力	88.1	87.1	66.7
	読む能力	54.8	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	73.3	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

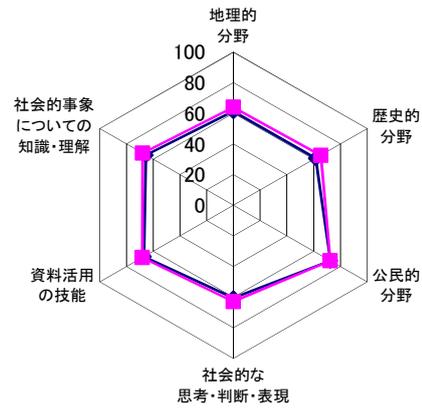
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>●平均正答率は、86.4パーセントであり、市の平均を2.3ポイント下回っている。特に「司会者の工夫を聞き取ることができる。」問題においては、全国の正答率を7.7ポイント下回っている。</p> <p>○「話の内容を正確に聞き取ることができる。」問題においては、市の正答率を1ポイント上回った。これは昨年度の調査では下回っていた分野の問題であった。</p>	<p>・相手の話の工夫に気づき要点を聞き取るために、メモの取り方を学ばせるとともに、話の内容を理解しながら聞き取るテストへの取組を定期的に行う。また、教科書記載の「話すこと・聞くこと」の領域の単元を活用した授業を展開し、その中で課題に沿った話し合い活動を多く取り入れ、主体的な学びができるよう話す・聞く能力を養う。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、87.8パーセントであり、市の平均を1.4ポイント上回っている。特に、「自分の考えを明確に書く」問題では、市の正答率を3.9ポイント、全国を28ポイントも上回っており書くことへの自信がうかがえる。</p>	<p>・自分の考えを明確に表現する力を定着させるために、短文作成や作文指導を継続する。さらに自己表現の語彙を増やすために、過去の読書感想文優秀作品や著名な文学作品を読ませることで優れた文章や知らなかった言葉に沢山触れさせる。</p>
読むこと	<p>●平均正答率が73.0パーセントと市の平均正答率より2.5ポイント下回っている。特に「文章の表現の仕方をとらえることができる。」問題においては、市の平均値を5ポイント下回った。</p> <p>○「文章の構成や展開をとらえることができる。」問題では、市の正答率を1.7ポイント、全国を4.3ポイント上回る結果となっている。</p>	<p>・「文学作品の内容を読み取る力」を強化するために、教科書に出てくる文学作品を使い登場人物の心情や情景描写が読み取れる言葉や表現に着目させることで読み取り方を学ばせる。またそれぞれの作品により文章の表現の仕方に工夫や変化があることなどにも気付かせ、文学作品への関心をさらに高めさせる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●平均正答率は、72.4パーセントであり、市の平均を1.2ポイント下回っている。特に、「漢字の読み書き」「古典の内容を読み取る」問題では、全体的に市の平均を下回った。</p>	<p>・漢字や文法についての学習を定着させるために、漢字テストを定期的の実施したり、繰り返し復習させたりすることで定着率向上を図る。また古典に対する苦手意識を緩和させるために、視覚教材を用いたり社会科の歴史の授業などと関連させたりすることで興味関心をもたせ、歴史的仮名遣いの確実な定着を図る。</p>

宇都宮市立清原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.4	64.0	50.9
	歴史的分野	61.5	65.3	57.1
	公民的分野	72.5	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	60.5	62.9	52.3
	資料活用の技能	66.9	68.2	58.1
	社会的事象についての知識・理解	65.6	68.0	59.9



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

● 本校 ■ 市

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

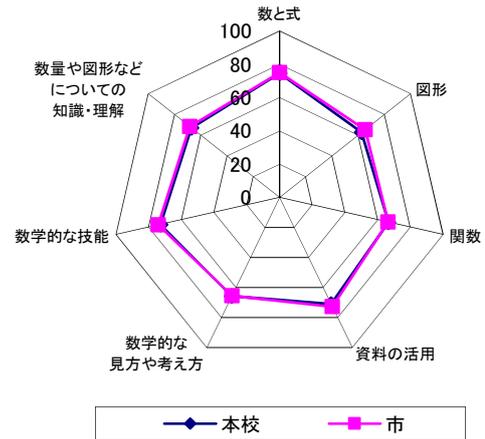
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は市の平均よりも2.6ポイント低くなっている。 ●ヨーロッパ州について複数資料から考察することが市の平均より10.3ポイント低い。 ○世界の気候帯や気候区についての正答率は市の平均より4.9ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察したことを表現する力を育てるため、様々な資料を読み取らせ、多面的・多角的に考察する機会を多く作り、根拠をもとに表現する力を養う。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は市の平均よりも3.8ポイント低くなっている。 ●各時代の政治に関する正答率が低く、院政についての正答率は市の平均より10.8ポイント低い。 ○室町時代から安土桃山時代にかけての正答率が高く、特にこの時代に活躍した人物の業績についての正答率は87.6である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化や人物と関連づけて、時代の流れを把握させつつ各時代の政治の特徴を理解させるため、資料を分析して史実を把握する力を養う。
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は市の平均よりも0.1ポイント高くなっている。 ○人権の歴史や裁判についての正答率は90%を超えている。 ●議院内閣制という用語で示される国会と内閣の関係についての理解の正答率が市の平均より13.9ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者である国民が国会と強く結びついていることを関連づけて理解させる。 ・公民分野では、これからの担っていく人材を育てるため、時事問題に関心をもたせ、現代の社会を見つめ、しっかりと考えられるようにする。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	74.6	75.0	70.3
	図形	62.7	65.2	63.4
	関数	66.6	66.4	51.5
	資料の活用	71.1	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	65.7	65.5	55.1
	数学的な技能	72.7	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	67.2	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

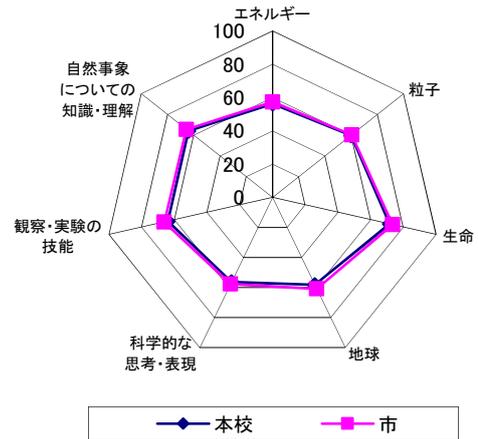
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○単項式の乗除・有理化・二次方程式の立式など、3年次で学んだ知識を問われる問題では市平均を上回っている。 ●文字式の計算・連立方程式に関する問題で市平均を下回っている。	・1・2年次に学んだ内容の定着が課題である。特に連立方程式・1次関数など重要単元の定着を図るため小テストを繰り返し行い定着を図る。また、徐々にレベルを上げていき、これらの発展的な問題でも対応できるようにする。
図形	○証明の意義を問う問題では市平均を2.4ポイント上回った。 ●証明の過程で必要な部分を指摘する問題では市平均を5ポイント以上下回っている。 ●仮定と結論を指摘する問題では市平均から5.2ポイント、全国正答率から19.6ポイント下回っている。	・作図は基本となる垂直二等分線・角の二等分線・垂線の作図が確実に定着できるように反復練習を行う。 ・図形の性質の証明では、まずは穴埋め形式の問題から取り組み、徐々にレベルを上げながら指導をし、仮定と結論を整理して論理的に述べられるようにする。証明の問題は定着度の個人差が大きいので、習熟度学習でレベルにあった指導を行っていく。
関数	○ $y=ax^2$ の変化の割合を求める問題では3.5ポイント市の平均を上回った。 ●比例の関係を表から読み取り、式で表す問題では5.3ポイント市平均を下回った。	・関数という分野自体に苦手意識を克服させる。1学年で学習する比例・反比例の段階から、関数の意味やその性質を丁寧に指導し、2数の変化にどういった法則や関係があるのかを理解させていく。 ・「変化の割合」や「切片」など用語自体は覚えている生徒が多いが、それが何を意味しているのかを正しく理解できている生徒は少ない。用語を言葉として覚えるのではなく、本質的な意味を理解させる。
資料の活用	○相対度数を求める問題に関しては市平均を0.4ポイント上回った。 ●確率に関する問題は2問とも市平均を下回っている。	・相対度数を求める問題や、中央値・最頻値など資料の分析と活用に関する問題は、単元としては1年次に行うが、2年次では確率を学ぶため内容としては少し遠ざかる部分がある。十分な演習時間を確保し反復練習を行うため、2年次で1年次の復習ができる機会を指導計画上に意図的に設ける。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	56.3	57.5	51.6
	粒子	59.9	60.3	53.0
	生命	71.6	73.4	67.9
	地球	58.2	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	56.3	57.7	51.5
	観察・実験の技能	64.0	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	64.1	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

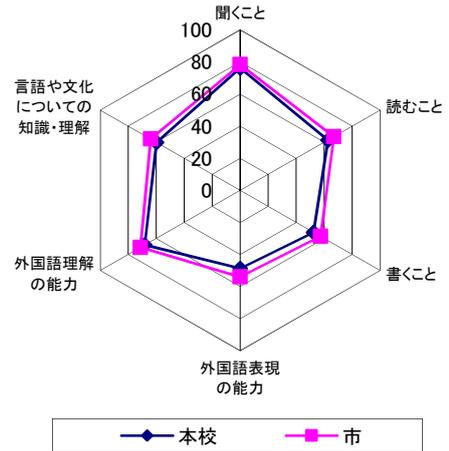
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、市の平均を1.2ポイント下回っている。 ○凸レンズによってできる像が物体と同じ大きさになるときの物体の位置を答える問いにおいては、市の平均を上回っている。 ●電流の性質全般において、市の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電流の性質においては、基礎的・基本的な知識の定着をはかるため、繰り返し演習をするとともに、定期的に復習する機会を指導計画上に意図的に組み込む。 ・思考力を高めるため、自然現象のしくみや実験の意味を確認しながら授業をすすめる。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、市の平均を0.4ポイント下回っている。 ○ろ過のようすをモデルで表す問いや電離についての理解においては市の平均を上回っている。 ●誤った結晶の質量の求め方を修正する問いにおいて市の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルや映像などの視覚に訴える教材、教具の活用が有効であると考えられるので、デジタル教科書などを有効に活用する。 ・筋道を立てて説明する力を育てる高めるため、生徒同士で学びあい、さまざまな考え方にふれたり、互いに指摘したりする機会を設ける。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、市の平均を1.8ポイント下回っている。 ○遺伝の規則性と遺伝子についての問いにおいては市の平均を3ポイント上回っている。 ●植物のからだのつくりとはたらきについての問いにおいて市の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題を出したり、小テストを行うことにより、基礎的・基本的な知識の定着を図った効果があったと考えられる。今後も続けていく。 ・授業で行う実験において、その目的や結果の考察力を育てるために実験の目的や結果の考察を丁寧に扱う。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、市の平均を2.7ポイント下回っている。 ○マグマや火山岩のでき方についての理解においては、市の平均を上回っている。 ●結露が起こるしくみについての問いの正答率は、市の平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象のしくみを考察する力を育てるため、授業で身近な現象の例を扱う機会を設ける。また、数々の自然現象を用語として覚えるばかりでなく、その意味することを身近な出来事と結びつけてとらえていくよう指導する。 ・宿題を出したり、小テストを行うことにより、基礎的・基本的な知識の定着を図った効果があったと考えられる。今後も続けていく。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.2	78.4	72.9
	読むこと	62.7	66.9	63.2
	書くこと	52.4	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	48.8	54.0	51.1
	外国語理解の能力	68.3	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	59.8	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○本校の正答率は76.2%であり、市の正答率と比較すると2.2ポイント下回っている。しかし、参考値と比較すると、3.3ポイント上回っている。</p> <p>●内容理解の能力はおおむね定着しているが、対話文の聞き取りは正答率が約65%と今後の課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の指示やコミュニケーション活動の説明を英語で行い、英語を聞く機会を増やす。 簡単な単語を使って、ゆっくりとした速度で英語を話すことで、英語を聞くことへの苦手意識をなくす。 授業のはじめに、ICTやジャスターなどを併用しながら英語での内容導入を取り入れ、相手の話している内容を理解したり、自然と英語を聞いたりできるようにする。
読むこと	<p>●本校の正答率は62.7%と、市の平均より4.2ポイント、参考値より0.5ポイント下回っている。さまざまな英文の読み取りが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新出単語や文法事項を繰り返し学習し、教科書本文の大まかな内容を短い時間で読み取れるようにする。 わかる喜びを感じさせるため、短い文で生徒が興味をもてるような内容の英文を紹介する。 初めて目にする文章でも自分の力だけ読み取ることができるようにするため、ワーク等から教科書本文と関連するような題材を見つけ、練習をする。
書くこと	<p>●本校の正答率は52.4%と、市の平均より5.1ポイント、参考値より6.0ポイントと大きく下回っている。</p> <p>●場面に応じて書く英作文は、平均正答率が25.4%と特に低い。</p> <p>●単語の並べかえによる英作文の問題の正答率は46.2%であり、文法に関する知識や理解の定着が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な英文でも書くことができる力を育成するため、主語と動詞の基本構造を使った簡単な英作文から、段階的に難易度を上げながら学習できるような指導計画を作成工夫する。 授業で自分を表現するような活動を意図的に設定していき、それを書くことで、自己表現力を高めていく。

宇都宮市立清原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
話し合い活動の充実	話し合い活動を生かせる場面、方法、期待できる効果などを全教職員で共通理解し、教科ごとに授業での活用場面を話し合う。 校内研修などで、効果のあった話し合い活動について、全教職員に周知する。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した生徒の割合が昨年度に比べ1年生が3.1%、2年生が9%、3年生が2.3%上回った。 「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した生徒の割合が昨年度に比べ1年生が5.6%、2年生が10%、3年生が3.9%上回った。
「書く」活動の工夫・充実	定期テスト等で、書かせる問題を増やし、普段の授業でも書かせる機会を多く取り入れる。 授業の中で分かったことなどや振り返りを、言葉で書かせ、他の人に向けて説明させる。	国語では、記述式設問の無解答率が市の平均と比べて低い。「指定された文字数で書くことができる」問題では、市の正答率を2%上回った。また、「自分の考え(まとめ)を明確に書くことができる」問題では、市の正答率を4.8%上回った。 数学では記述式設問の無解答率が市の平均より高い。しかし、「グラフを根拠に説明することができる」問題の正答率は市の平均を4.2%上回った。
家庭学習の充実	自主学習ノートを全学年共通で行い、毎朝提出状況をチェックする。未提出の生徒には担任から声かけをし、継続して学習していけるよう励ます。 自主学習ノートのやり方として見本となるようなものを全校生徒に示す。	1、2生の「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒の割合が、市の平均を上回った。 3年生は平日の学習時間が「ほとんどしない」生徒の割合が、市の平均が2.7%に対して、本校は0.9%であった。「3時間以上」の生徒の割合も市の平均が41.9%に対して、49.3%だった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」生徒の割合がが昨年度に比べ全学年において上回った。1年生は市の平均を上回り、2年生もほぼ同じ結果となった。学校全体で「話し合い活動」を取り入れた授業を推進した結果と言える。次年度も継続して一人一授業公開の重点課題を「学び合い」として、学校全体で指導に取り組んでいく。

国語・数学において「理由を書く」、「まとめる」、「説明する」問題で市の正答率を上回る結果となった。普段の授業でも書かせる機会を多く取入れたり、授業の中で分かったことを、言葉で書かせ、他の人に向けて説明させる機会を増やした結果と思われる。次年度は、今年度の指導を継続するとともに、「振り返り」の時間を確保し、自分の言葉で書く機会を作る。

家庭での学習についての肯定的回答が昨年度に比べて向上した。学校全体で自主学習への呼びかけを行った結果と思われる。しかし、自ら取り組む態度に関わる項目では、2年生は60%に達していない。次年度は、「きよはら学習ガイド」を用いて、自主学習ノートを用いての学習の仕方を丁寧に指導する。